

福祉現場潤すデザイン

倉敷で川崎医福大卒業制作展

学習ブロックや制服350点

川崎医療福祉大（倉敷市松島）の医療福祉デザイン学科生による卒業制作展が、同市中央の市立美術館で開かれている。障害児教育や高齢者施設など福祉の世界にデザインを生かそうと工夫した作品が目まぐるしく並ぶ。4日まで。

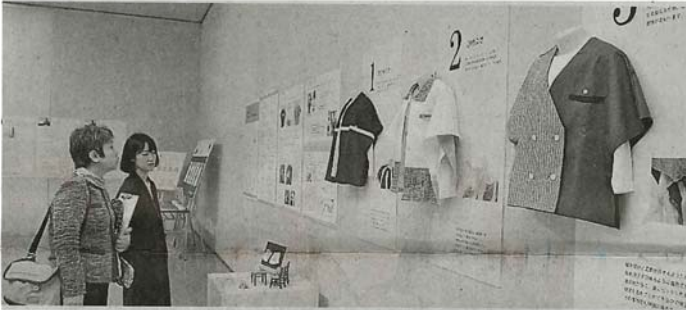
「人に寄り添うデザインを目指して」をテーマに27日に始まり、4年生23人が課題を見つけて取り組んだ実作品やパネルなど約350点を展示している。ともに最優秀賞を受けた岡谷さやかさん（22）の聴覚障害児が助詞を遊び感覚で学べるブロックと、糸島智佳さん（22）の緊急時にも着脱容易な院内学級の子どもの制服をはじめ、絵本型の小児用薬袋や生活保護制度を分かりやすく紹介する4コマ漫画などがずらり。福祉現場に潤いをもたらすデザイン作品に、来場者は感心しながら見入っている。

児童館職員の谷陽子さん（52）＝井原市美星町三山＝は「相手の立場で物事を捉えるアイデアが素晴らしい」と話していた。

午前9時～午後5時。入場無料。
（仁井名小百合）



聴覚障害児が助詞を遊び感覚で学べるブロックと手掛けた岡谷さん



糸島さんの院内学級用制服（右3点）など学生たちの意欲作が並ぶ会場

増さんデザインに動画